

会見した男児の母親（左から2人目）と弁護団



小金井の市立小

母「真実を明らかに」

自閉症児負傷 校長らを提訴 賠償と謝罪求める

小金井市の市立小学校で一昨年、心身障害児学級に通う自閉症の男児(10)が担任の男性教諭に倉庫に閉じ込められて負傷した事故で、両親らは1日、提訴に踏み切った。男児の母親(42)は「真実を明らかにしたい」と訴訟に願いを込めた。

「なぜ大きなけがをしなければならなかったのか」。提訴後の会見で母親はこう訴えた。男児は閉じ込められる直前、泣きそうなお顔を前に出

す動作をしていたという。母親は「閉めないでと言えない息子の最大級の表現。でも、先生は扉を閉めた」と言い、「息子が感じた恐怖を思うと胸が締め付けられる」と話した。

今回の訴訟で両親は、同市と当時の校長、男性教諭に約2000万円の賠償などを求めている。自閉症児には視覚的な指導が効果的で、身ぶりや「X」などの記号を示して注意する方法もあった

が、男性教諭はしつこく責を繰り返したため、「知識不足で学校の指導方針自体に誤りがあった」と主張している。

学校は事故後、市教委に「児童が自閉症で説明できない」「事故の目撃者がいない」などの理由で「事故原因や経緯の特定は無理」と報告した。

自閉症児の教育「検査は理解低い」

小金井署は昨年7月、男性教諭を業務上過失傷害の疑いで書類送検したが、地検八王子支部は嫌疑不十分で不起訴とし、検察審査会も「不起訴相当」と議決した。清水建夫弁護士は「検査は自閉症教育の理解が低かった。(事故の)予見可能性を認めてもおかしくな

い。大変残念」と言う。

男性教諭は今回の事故で減給10分の1(1カ月)の懲戒処分を、校長は管理未行き届きで文書訓告を受けている。市教委は「訴状が届いていないので(訴訟には)コメント

【荻田伸宏】